

研修コースの概要

施設名 松江赤十字病院

1. 研修コース名

松江赤十字病院 眼科 後期研修臨床医コース
診療科名 眼科

2. 研修コースの種別

「日本赤十字社認定臨床医コース」・「日本赤十字社認定専門医コース」

3. 研修期間

4年間

4. 研修コースについて

(1) 目的

代表的な眼科疾患について、人命を尊重し、安全で良質な全人的医療を提供できる質の高い総合的診療能力を身につける。眼科診療における知識・技術を学ぶとともに、医師として必要な技術・態度を習得する。

災害医療を理解し、赤十字の医師として、国内で発生する災害や、海外で発生する紛争・自然災害などの救護・救援活動に貢献できる能力を身につける。

眼科専門医受験資格を取得する。

(2) 到達目標（目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等）

- ・ 代表的な眼科疾患につき自ら検査計画をたてて、正しく診断できる。
- ・ 代表的な眼科疾患につき自ら治療計画をたてて、的確に実施できる。
- ・ 代表的な眼科急性疾患の診療を自ら実践できる。
- ・ 患者中心の全人的医療チームの一員として実践できる
- ・ 安全な医療を実践できる。
- ・ 眼科専門医に必要な症例を経験し、眼科専門医資格に足る知識・手技・判断力を身につける。
- ・ 国内のみならず海外での救急医療、災害医療への対応ができる。
- ・ 初期臨床研修医の指導ができる。

(3) 赤十字としての特色

・ 救急医療

当院には救命救急センターが設置されており、豊富な症例数に基づき充実した研修を行うことができる。救命救急センターの日当直医の分担により、救急医療について研修を行うことができる。

・ 災害医療

災害時の救護班出動とそのための救護訓練参加などが研修の一環として行える。

・ 国際救援

国際救援に対応する力を養うため、各種研修会等に参加できる。

(4) 協力医療施設名

なし

5. 研修コース責任者

・職 眼科部長

・氏名 高梨泰至

・連絡先 電話番号 0852(24)2111 内線(2580)

メールアドレス ophthal@matsue.jrc.or.jp

6. 診療科の指導体制

(1) 医師数 合計 1名

常勤 1名、非常勤 名

うち、研修の指導にあたる医師数 1名

(2) 指導責任者

主として研修指導にあたる医師の職・氏名、診療科経験年数

・職 眼科部長

・氏名 高梨泰至

・診療科経験年数 16 年

・連絡先 電話番号 0852(24)2111 内線(2580)

メールアドレス ophthal@matsue.jrc.or.jp

7. 募集

(1) 募集人数 2名

(2) 募集方法(複数可)

自院の初期研修医から・他赤十字病院の初期研修医から・自院及び他赤十字病院の日本赤十字社認定臨床医コース研修医から・インターネット・医学系雑誌・院内報・大学病院へ直接・他医療機関に直接・その他
(具体的に)

※本研修コースが日本赤十字社認定専門医コースの場合、「自院及び他赤十字病院の日本赤十字社認定臨床医コース研修医から」に○を付すること。

8. 取得可能資格等

学会名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本眼科学会	眼科専門医取得準備期間	日本眼科学会専門医制度教育病院

9. 研修期間中に経験する症例等について

(1) 症例数

主要疾患名	症例数	経験目標症例数	実施施設名※
白内障	600例	50例	
緑内障	200例	20例	

網膜剥離	100 例	15 例	
糖尿病網膜症	150 例	20 例	
加齢黄斑変性	50 例	10 例	

※他の医療機関で研修する症例のみ、当該医療機関名を記載すること。

(2) 手術又は手技等件数

手術又は手技等	手術又は手技等件数	経験目標件数	実施施設名※
白内障	300 例	30 例	
緑内障	100 例	10 例	
網膜剥離	100 例	10 例	
糖尿病網膜症	50 例	10 例	
斜視手術	10 例	2 例	
角膜移植	3 例	1 例	
翼状片	20 例	10 例	

※他の医療機関で研修する手術又は手技等のみ、当該医療機関名を記載すること。

(3) 赤十字医療施設としてのプログラム

ア 救急医療について

主要疾患名又は手技等	症例数又は手技等件数	経験目標症例数又は件数	実施施設名※
網膜中心動脈閉塞症	5 例	3 例	
眼外傷	30 例	10 例	
脳血管障害	約 550 例	5 例	
冠症候群の初期治療	約 300 例	5 例	
多発外傷	約 180 例	1 例	

※他の医療機関で研修を受ける救急医療のみ、当該医療機関名を記載すること。

イ 災害医療について

災害時の救護班出動とそのための救護訓練参加などが研修の一環として行える。

ウ 国際救援について

国際救援に対応する力を養うため、各種研修会等に参加できる。

エ 資格認定試験等への対応について

日本眼科学会認定の眼科専門医資格取得に必要な症例を経験するとともに、学会への出席を義務付ける

オ その他

赤十字活動普及のためのイベントや海外たすけあい運動などに積極的に参加できる。